

-会 議 録-

会議の名称	第24期東村山市社会教育委員会議（第4回）				
開催日時	令和4年2月18日（金）午後7時～9時				
開催場所	東村山市役所いきいきプラザ4階教育委員会室（WEB会議）				
出席者 及び欠席者	●出席者： （委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・杉本みさ子議長・森田 明美副議長 ・吉満 洋子委員・桑原 純委員 ・福島 真理委員・上田 幸夫委員 ・伊藤 二葉委員・片岡 了委員 ・小山 武士委員 			
	（市事務局）	<ul style="list-style-type: none"> 朝岡 雅洋 社会教育課長 杉山 健一 公共施設マネジメント課長 野崎 美里 社会教育課生涯学習係長 大野 傑 公共施設マネジメント課主査 檜 延宏 公共施設マネジメント課主任 加治 駿 社会教育課主事 			
	●欠席者： （委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・織茂 直樹委員 			
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の 場合はその 理由	/	傍聴者 数	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 <ul style="list-style-type: none"> (1) あいさつ（議長、課長） 2. 公共施設マネジメント課による説明 <ul style="list-style-type: none"> ～東村山市の公共施設のあり方について～ 3. 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック 研修会の振り返り 4. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会 (2) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社 会教育委員研修会 (3) 令和3年度「成人の日のつどい」について 5. 閉会 				

問い合わせ先	教育部社会教育課生涯学習係 担当者名 朝岡・野崎・加治 電話番号 042-393-5111 (代表) ファックス番号 042-397-5431
会 議 経 過	
1. 開会	
<p>【課長】 皆様こんばんは。第4回目の会議を開催いたします。 それでは開会に先立ちまして、議長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>【議長】 関東甲信越静社会教育研究大会東京大会や東京都市町村教育委員連絡協議会第4ブロック研修会も無事に終了することが出来ました。本日、公共施設マネジメント課による説明があるので、よろしくお祈いします。</p> <p>2. 東村山市の公共施設のあり方について</p> <p>【課長】 東村山市第2次生涯学習計画の基本目標4「社会教育施設の活用と整備」「関連施設の活用と整備」に関連して、令和2年度に改定をした「公共施設再生計画」等を踏まえて、市の公共施設の在り方について、担当所管よりご説明させていただきます。</p> <p>【公共施設マネジメント課長】 出張講座等で市民の皆様には計画内容や取組について説明しておりますが、ここから先は、建て替えの時期にあたります。今後に向けて、必要なサービスを考えて、それに合わせて公共施設も必要なものに建て替えていきたいと思ひます。 本日はこの2年間での検討内容と市民講座の内容を説明し、皆様と意見交換等をしていければと考えていますので、よろしくお祈いします。</p> <p>【公共施設マネジメント課主査】 本日は、公共施設の再生問題ということで、全国的に老朽化が進んでいることを説明させていただきます、更新問題を乗り越えるために本市の再生計画について説明します。最後に意見交換をさせていただければと思ひますので、よろしくお祈いします。 高度経済成長期で、右肩上がりの時代に人口が爆発的に増加したときに、集中的に整備されてきた公共施設が更新時期の60年をまもなく一斉に迎えます。一方で、人口減少や少子高齢化も進んでおり、税収の減少や社会保障費の増加により、歳入と歳出のギャップが多くなるのが、更新問題の主要な課題となります。 東村山市は約200の公共施設があります。床面積だと252,000㎡となり、市民1人あたり約畳一枚分となります。 東村山市の人口は、全体で見ると減少傾向となり、令和42年には約4万近くの人口が減少する推計があります。年齢層割合を見ていくと、14歳以下の年少人口は減少傾向にあり、一方で75歳以上の後期高齢者人口の割合は増加している傾向なので、人口減少や少子高齢化が東村山市でも起きているという現状となります。 市の財政状況ですが、人口減少や少子高齢化が進むにあたり、働きざかりの方々も減</p>	

少し、市の大きな収入となる税収が減ってくるのが予想されます。支出内容は社会保障費等が増加していくことが予想され、支出がより増大し、入ってくるお金が少なくなり、より公共施設に係るお金も少なくなるのが現状です。東村山市の建物は、昭和40年から50年代に集中的に整備されたものが多く、集中して次の山場を迎えていくことになります。

今後施設を維持していくための費用として、公共施設は建物だけではなく、道路や橋梁なども含め、30年間で1400億円以上もかかることが予想されています。年間にすると、約48億円がかかり、直近で公共施設に充てていた額が約25億円であり、かかる経費とかけられる経費のギャップが出てきてしまっています。

建て替え時は、建てる時のお金だけではなく、維持管理費や日常に使われる費用が発生します。一般的に建設費は建物の生涯コストの約2割程度と言われており、建物を維持する経費についても多くかかることとなります。

市民がどのようなニーズを持っているかを同時に考えていく必要があります。無作為で市民にアンケートをした結果は、公共施設を利用しない方が大半でした。公共施設が整備された時代には、必要に応じて建てられたと思いますが、時代のニーズによって変化している結果だと思えます。

多くの建物で老朽化が進んでおり、建物の維持管理でお金がかかっているが、現状の予算の範囲でのやりくりは厳しい状況です。今ある全ての施設をこれまで通りに維持することは事実上出来ないのも、これからどうしていくか検討する必要があります。

令和2年度に改定した「公共施設再生計画」では、「将来世代にツケを回さず、時代の変化に対応した安全・安心な施設に再生し引き継ぐ」をコンセプトに掲げています。基本方針ですが、どんなサービスがあって、それがどうなるかが一番大事だと考えています。古くなったので、新しくすれば良いということではなく、サービスの内容を考えていくことがハコに依存しない公共施設に再生するということとなります。

基本方針2で、今あるものを含めて、効率的・効果的に使う手段を探ることで、新しい物に変えれば、その時には使いやすさが出てくると思いますが、その費用についても限界もあるので、管理費用等も含めていろんな手法を駆使していくこととなります。

基本方針3で、建て替えだけではなく、安全も当然きっちりと確保していくことが必要となり、計画的な保全により公共施設の安心安全を確保することも掲げています。

基本方針4で、部署を飛び越えて、横断的に連携し、みんなで使いやすい施設にしていく考え方を東村山市として掲げております。

再生計画の中で、サービスに着目していくと、手法としては、民間や外部委託ということも当然検討しており、現在でも進めているところもあります。また、より効率的ということで、集約できるところは集約していき、より良い使い方を踏まえて考えていくこととなります。

いつまでに何をするかということも施設分類ごとに異なってきますので、こういった時期にこういうことを検討するということを掲げております。

古くなってしまっただけで、お金を確保することが出来なくなってしまうということですが、逆にこれを機に時代の変化に対応して、安心安全な施設に再生するということがチャンスであるとも考えていますので、是非とも皆様と意見交換出来ればと考えています。

【公共施設マネジメント課長】

今後は単独の施設ではなくて、複合施設を建てて、その中に公民館の機能が入ってくると想定しています。もちろん、単発で建てる建物もあると思いますが、やはりお金の問題や人口減少の問題があり、ニーズも変わってきているので、建物を建て替えて

いくだけではなく、お金が減っていくことや人口が減少していく課題があっても、きちんとサービスが進んでいくように出来ればと良いと考えています。

ハコモノについて、お金の許す範囲の中で検討出来ればと考えておりますが、サービスの維持についてきちんと市民の皆さんと合意形成が出来て、ハコもきちんとして、サービスも必要なものにして、継続出来ればと思っており、単純なハコモノの更新ではないということを意識していきたいと考えています。

今後、実行策を出すために、市民にサービスの在り方が重要であるということを含めたディスカッションが出来るように論点を整理しているところです。そのうえで、市民や各種審議会の皆様の意見も踏まえ、施設の規模やサービスの在り方について令和5年度にアクションプランという実行策を出していくことを考えています。

【A委員】

公共施設に対する市民ニーズのデータはいつのものになるでしょうか。

【公共施設マネジメント課長】

平成24年度の計画に掲載しているデータなので、その時のデータとなります。補足すると、利用者と想定される年齢層・家族構成の方と集計しており、ニーズが変わってきていることを認識しております。せっかくコミュニティの場であるのに、使い切れていないと考えており、どんどん良くしていくことや他の施設でも出来るようにしていくことを今後考えていかないといけないと受け止めております。

【A委員】

コロナの影響で更にその傾向が強くなっている可能性が高くなっていると思います。

【公共施設マネジメント課長】

コロナの影響で公共施設を閉鎖していたこともあったので、より一層この数値が悪くなっていると思います。一方で、オンラインでコミュニティを形成することが出来る機会もかなり増え、社会教育だけではなくて、いろいろとオンラインで頻繁に行われているので、それと組み合わせるサービスも考える必要があると考えております。

【B委員】

ピンチをチャンスにということ、これを契機にサービスの在り方を変えていこうということに、チャンスの意味合いがあると捉えてよろしいですか。

【公共施設マネジメント課長】

その通りでございます。

【B委員】

社会教育委員会では、生涯学習のサービスの在り方を検討した上で、そのハコモノの更新の兼ね合いをすり合わせていくことが一番ではないかと思えます。

【公共施設マネジメント課長】

サービスを良くしていくことが重要になりますが、サービスが今まで通りだけではなく、ニーズに合わせて変えていかないといけません。社会教育などの本質は押さえておきつつ、その老朽化を乗り越えていかないといけませんし、一緒に出来るように

考えていくことが大事ですので、皆様がおっしゃっていただいたことを踏まえ検討していきたいと考えております。

【課長】

公共施設マネジメント課の皆様ありがとうございました。
それでは、協議事項を議長よりよろしく申し上げます。

3. 協議事項

【議長】

令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会の振り返りということで、初めに事務局より説明をお願いします。

【係長】

令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会の参加者アンケートを行い、紙媒体とオンライン回答を集計し、回収数は17件でした。講演内容については、適当と回答した方が9割近くで、新しい時代におけるコミュニケーションの在り方について理解できて役に立ったという意見が多かったです。事例発表については、適当と回答した人が64.7%、おおよそ適当と回答した方が35%と、ボランティア団体代表者目線で様々な通信手段を活用し、中野区民の生涯学習をサポートするという貴重な事例で良かったなどの感想がありました。グループワークについては、適当と回答した方が、81.5%で、おおよそ適当と回答した方が18.8%で、こちらも高い評価を受けることが出来ました。具体的には「アイシテルカード」を使用して、初対面の方ともコミュニケーションを取りやすかったり、様々なことを共感したり発見をすることが出来たという意見が多かったです。全体の満足度としては、満足と回答した方が、76.5%で、ほぼ満足と回答した方が、23.5%で、参加した方が概ね研修について満足出来たことが分かります。

【議長】

全体的に好評だったと感じています。皆さんと振り返りながら、何か課題等がありましたら、ご発言いただけると今後に生かせると思いますので、よろしくお願いします。

【C委員】

回答数が17件であり、10件は東村山市になると思いますので、残り7件が他市で、それだけしか頂けなかったことになると思います。
グループワークでせっかく集まっているので、時間が足りなかったということがないような配分を心がけていただければと思います。内容は勉強することが多かったので、聞きっぱなしではなく、いろんな活動で生かしていければと思います。

【D委員】

コロナ禍の研修であったので、時間配分等は難しかったかもしれません。ただ、研修の流れとしては、基調講演を聞いて、グループワークに入ったことは良かったと思います。初めて会う人がほとんどではありましたが、フレンドリーに話をすることが出来たと思います。そのためか時間が足りなかったかなとも思いました。基調講演についても、初めて聞く話だったので、興味深い話であったし、グループワークも各自治体の方が積極的に話をしていただいたので、すごくためになったことが多かったです。

【E委員】

初めてお会いする方々と「アイシテルカード」を使って、色々と盛り上がって楽しく出来ました。研修となると、話だけ聞いて終わってしまう部分も多いですが、今回はいろんな方々の話、コロナ禍での状況も聞けたので、すごく良かったのと思いました。

【F委員】

「アイシテルカード」を活用し、身近な事柄やコロナ禍で経験したことや変わった価値観など、いろんな方の意見を聞いて、楽しく研修を受けることが出来ました。講演も先生の話し方も上手であったこともありますが、とても面白く、貴重な研修でした。

【B委員】

グループワークというのは、時間を押してしまう傾向があります。また伸ばしてしまうと時間が足りない印象を持たれ、話し合いの経験の少なさだと思います。まとめて話をしていくとかが難しい状況であって、時間の配分が難しいと思いました。

このテーマを選んだ理由などについて、もう少し主体的に検討することがあればと思います、研修の在り方の課題を改めて感じたところです。ただ、他の地域の社会教育委員と話す機会がとても大事だと思いましたので、参加した意義はあったと思います。

【G委員】

今回コミュニケーションというテーマでしたが、東村山市第2次生涯学習計画の策定に取り組んだ2年間の背景にあったと思います。そういう経験を生かして、コミュニケーションのテーマに挑んだ時、納得がいくものがあったのではないかと思います。今回の研修テーマが、人と人との直接的なものに集約されたものですが、課題を挟んでコミュニケーションをするときに、その難しさが出てくると思いますので、もう一段進んだ研修テーマが必要なのかなと思っています。

もう一つは、話し合いの時間が足りなかったということで、それだけ研修が充実していたということだと思います。足りなかった部分については、これからの会議の中で実現していくなどして、課題を意識していくことが必要かと思っています。

コミュニケーションは初めてのテーマであったと思いますが、これを今回のみで終わらせずに続けていくというのも必要かと思っています。つなぐというコミュニケーションのテーマで、これからも重ねていく、深めていくテーマを設定していけば、コミュニケーションというこのテーマは良かったのではないかと思います。

また、講演の中でリフレーミングという言葉がありましたが、固定概念にとらわれず、物事を多角的に見ていくこと、捉えなおしと訳されていますが、新しい価値を創造し、固定概念を見直していくことが求められていることだと思います。これがきちんとコミュニケーションとして課題が残されたのではないかと思います。

【H委員】

東村山市第2次生涯学習計画でテーマのようなことを話し合い、講師を紹介していただきましたが、今回の研修はテーマと異なると感じました。なかの生涯学習センターの事例で実際にどういう風につながるなどがテーマ内容だったかと思いました。

【A委員】

I C Tを活用すると、生身で話すことが少なくなり、そういう意味でコミュニケーションが大事ですが、それとの関連性があっても良かったかなと思っています。

なかの生涯学習サポーターですが、いろんな場所で生涯学習サポーターをいろんな場所で行っているということで、東村山市も公民館にもボランティアで市民講座をサポートする方がいるみたいですが、そのような市民の存在もすごく重要と思います。

【議長】

時代に合ったテーマを設定し、そのテーマがどうあるべきかを念頭に置いてやっていけないと思っております。時間配分等も次回の課題にしていきたいと思えます。

【B委員】

今後についてですが、公共施設再生計画の話からすると、社会教育施設のサービスの在り方を視野に入れて議論することになるかと思えます。したがって、施設サービスの在り方を我々がまとめる機会があっても良いのではないのでしょうか。ハコモノの更新をするということで、社会教育施設のサービスの在り方を変える可能性が十分にあるということで、サービスの本来の在り方を社会教育委員会議できちんと示す必要があると思えますので、今後の議題に盛り込んでいただければと思えます。

【H委員】

今回の説明内容については、今後の研究テーマに関係性についてはどうでしょうか。

【課長】

市の全体的な在り方について話をさせていただきましたが、社会教育委員の皆様にも社会教育施設の在り方について、色々のご検討いただく上で、市の公共施設についても話を伺いながらご協議をしていただければと思えます。

4. 報告事項

- (1) 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会
- (2) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会
- (3) 令和3年度「成人の日のつどい」について

.....
次回 令和4年3月29日(火) 19時～
.....

●副議長よりあいさつ

5. 閉会

※資料が必要な方は社会教育課までお問い合わせください